

空間スケールと政策課題に対応した官民連携型の 雨庭導入方法の整理と提案

～京都市と熊本県を対象に～

環境人間学部 環境人間学科

教授 おおた なおたか 太田尚孝、◎B4 まえだ なお 前田菜緒

大学院緑環境景観マネジメント研究科

講師 しんぼ なおみ 新保奈穂美

キーワード

グリーンインフラストラクチャー、雨庭、水害、京都、熊本



研究概要

近年、短時間強雨の発生回数の増大により洪水発生リスクが増大しています。そこで、本研究ではグリーンインフラの一つであり、暮らしに身近な雨庭(図1)を取り上げ、先進的に整備を進めている京都市と熊本県における雨庭の導入、整備のプロセスと維持管理の成果・課題を空間スケールと政策課題に注目し明らかにすることを目的としました。

京都市における調査の結果、①現状では日常的なレベルの降雨には対応できるが極端な水災害との関係性は薄いこと(図2,3)、②整備は途中段階であり維持管理に際して行政とボランティア間の意識のズレがあることが分かりました。整備や維持管理の関係図は図4の通りです。また、熊本における調査の結果、①水害を受け始まった「緑の流域治水」内での取り組みであること、②雨庭位置は排水困難な地域等と重なっておらず、局所的でなく面的な雨水の貯留・浸透を目的とした整備と推察できることが分かっています。

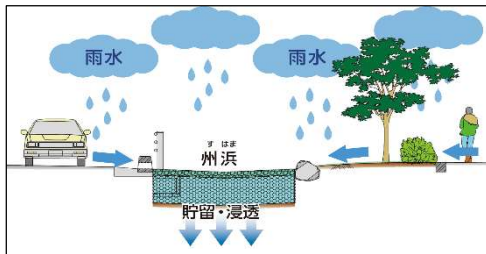


図1 雨庭とは 出典：京都市

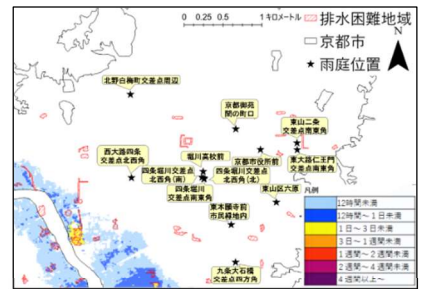


図2 雨庭位置と水害危険性 筆者作成

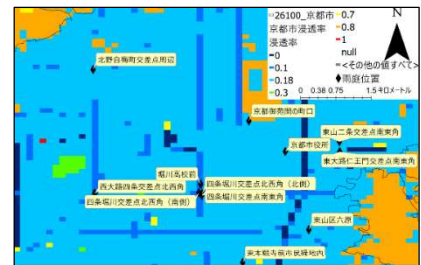


図3 雨庭と周囲の浸透率 筆者作成

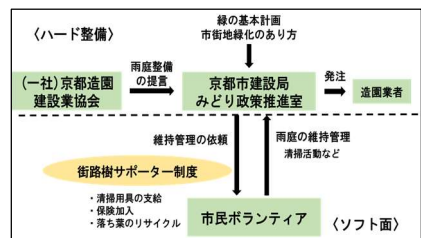


図4 京都市の雨庭整備関係図 筆者作成

アピールポイント

既往研究で言及されていない維持管理を含めた雨庭の整備、政策課題との関係性に注目していることが本研究の独自性といえ、今後の雨庭導入・整備の参考として寄与できると考えています。本研究の昨年度までの研究結果は学会誌(前田ほか(2023),「京都市における雨庭の導入・整備プロセスと維持管理体制の実態に関する研究」,『都市計画報告集』vol.22, no.1, pp.20-23, 日本都市計画学会)に掲載されました。

